

元禄十六年十一月二十三日 (1703 年 12 月 31 日) 南関東地震

による東京都の詳細震度分布

東京大学地震研究所 都司嘉宣*・上田和枝・行谷佑一
防災科学技術研究所 伊藤純一

Pin-point estimation of the seismic intensity distribution of the Genroku South-Kanto Earthquake of December 31, 1703 in the Tokyo Metropolitan District

Yoshinobu TSUJI, Kazue UEDA, Yuichi NAMEGAYA, and

Earthquake Research Institute, the University of Tokyo

Yayoi 1-1-1, Bunkyo Tokyo, 113-0032 Japan

Jun'ichi ITO

the National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

Tenno-dai 3-1, Tsukuba City, Ibaragi prefecture, 305-0006 Japan

In the early morning of December 23, 1703 a gigantic earthquake called the 1703 Genroku South Kanto Earthquake broke out in the sea region south off Kanto District, and is considered to be one of the same series of earthquakes as the 1923 Great Kanto Earthquake. About 300 pages of old documents in printed texts had been found out. We selected descriptions of events happened in Tokyo Metropolis Zone, and we compiled a database. In the recent years, a dictionary of detailed place names in Tokyo Metropolis was published, by which we can easily research the historical changes of many street names in Tokyo City zone. And moreover, the detailed map of Edo City zone originally published in 1702 called "Kaisen-Edo-Ooezu" by Ochi-kochi-Do-in was reissued, by which the distribution of dwelling place of each Daimyo (lords) or retainer just one year before the earthquake was clarified. We can estimate the distribution of pin point seismic intensity on detailed city map. In the present study, on the basis of these materials, we made the map of detailed distribution of seismic intensity of the 1703 Genroku South Kanto earthquake in Tokyo Metropolitan area.

§ 1. はじめに

元禄十六年十一月二十三日 (西暦 1703 年 12 月 31 日) の午前 3 時頃, 江戸をはじめとする南関東地方全域に大きな災害をもたらした元禄南関東地震 (以下元禄地震と呼ぶ) は, 大正 12 年(1923)の大正関東震災と同じく相模トラフを構成する北米・フィリピン海の両プレート境界面の滑りによって生じた海溝型巨大地震である (羽鳥ら,1973, 村上ら, 2003). この元禄地震に関する文献史料は, 武者(1941), 東京大学地震研究所(1982,1989, 1994)に数多く集積されている. ことに東京大学地震研究所(1982)は全巻が元禄地震の史料である. 筆者はこの多量に集積された元禄地震の文献史料を, 要するに地図上のピンポイント精度の各点で物理的に何が起きたかに注目してデータベースを作成し, 千葉県房総半島先端部の詳細震度分布を描い

たことがある (都司, 2004-a). また同様の作業を江戸の市街地に対して試みたこともある (都司ら, 2003, 都司, 2003, 都司, 2004-b). その結果, 現在の皇居と JR 東京駅の間の丸の内から北方, 大手町, 神田神保町, 北の丸, 水道橋にかけて震度が強く現れるところがあり, その位置は中世以前, 太田道灌が江戸城を築く前の中世江戸地図における日比谷入江と平川の流域に一致していることを指摘した. 同じような目的で, 安政江戸地震に対して江戸市中の精密震度分布図を描く試みは宇佐美(1996), 中村ら(2003)によってなされている. また大正関東地震(1923)に対しては武村(2003)が試みている. それらの研究の結果, 江戸・東京の市街地で震度が強く現れる「線」については, 大正関東地震(1923)に対しても安政江戸地震(1855)に対してもほぼ同様の傾向があることが解明された

* 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1



図1. 元禄十五年遠近道印作の「改撰江戸大絵図」の江戸城周辺主要部
Fig.1 The main part around the Edo Castle, “Kaisen-Edo-Ooezu” (City map of Edo)
printed in 1702 by Ochikochi-Doin.

(たとえば中村ら,2005).

筆者の前の研究(都司, 2004-b)では, 古文献史料に基づく元禄地震の江戸市中の震度分布の推定ではあったが, それらに記された地名については, 現代地図上での照合作業が十分ではなかった. たとえば原文書に「津軽藩中屋敷」と書かれていても, その元禄16年(1703)当時の所在については調査する方法が見出せず, これらのデータは「プロットできないデータ」として採用を見合わせざるを得なかったのである.

しかしながら, 元禄地震の前年の元禄15年(1702)に作成された「改撰江戸大絵図」が人文社から復刻され(2003), 元禄地震当時の大名, 旗本などの配置や, 町人などの住む町の配置が明白となるに及んで, 多くの記録事象に対してこれまでは不明であった現代地図上のピンポイント位置が急に明らかになった. これに加えて平凡社の「日本歴史地名大系」の第13巻として「東京都の地名」が2002年に刊行されて, 江戸期の市街地名が現代地図の何町何丁目に相当しているかの情報が明らか

かになってきた. これまで東京都の地名辞書としては角川書店(1988)があったけれども, 平凡社の地名大系のほうが町名の時代変遷を含めてより歴史事実に即して詳細に記載されている. 両方の地名辞書があい補い合って, 江戸期の江戸を構成する町地名の現代地図上での精密な範囲を把握できるようになった. 以上のような事情で, 元禄地震の江戸の詳細震度分布図を高密度に描く作業は, 最近の2, 3年の間に急に可能となってきたのである.

本研究では, 東京大学地震研究所(1982)に紹介された元禄地震記事から, 現在の東京都域内の地点に関して「地震によって何が起きたか」の具体的な内容のある記事を拾い出した. その記事をもとに, 地図上の1地点の1種類の事象を基本単位としてエクセルのデータベースを作成した. その上で個々の項目の記事にしたがってその地点での震度を推定し, 一方そこに記された地名を「改撰江戸大絵図」を初めとする当時の絵地図上に確認し, 現代地図上の位置を確認した. こうして, 元

禄地震による江戸での詳細震度分布図が得られたのである。

§2. 人文社復刻版「改撰江戸大絵図」について

本研究の作業を進める上で決定的な役割を果たした人文社復刻版「改撰江戸大絵図」について述べておこう。この絵図の原本の書き込みに従えば、この絵図は元禄地震の前年の元禄十五年(1702)二月に遠近道印(おちこちどういん)によって大門通り板屋弥兵衛という版元から頒布されたものである。前年に五枚の図であったものを一枚にまとめたとして注記されている。地図の範囲は江戸城からだいたい2里までの範囲で、北は千駄木付近まで、西は現代の四谷から新宿付近まで、南は目黒・品川宿まで東は本所深川まで、すなわちおおむね現代の墨田区江東区の範囲までが描かれている(図1)。そして現代の居住者を表示した地図と同じように町に当時住んでいた人の名前がびっしりと書き込まれている。とくに、図2によると、江戸城の正面に当たる現代の日比谷公園、丸の内、大手町のあたりにあった江戸幕府の長老格の大名屋敷の配置や、江戸城を取り囲む御門の配置、江戸城北方の田安門・竹橋から北方に延びていた「大名小路」と呼ばれた地域に住んでいた旗本の配置などの様子を詳細に知ることができる。幕府の長老格の大名の屋敷は江戸時代全体を通じてそれほど変化していないが、それ以外の一般の大名の屋敷は江戸時代の各時期に盛んに配置が変更された。ましてやその下位の旗本となると、より頻りに邸宅敷地の移転が行われた。このため、たとえば幕末の嘉永安政期の江戸の絵図では、元禄地震の記事を理解する上でほとんど参考とすることはできないのである。この点この図は元禄地震の前年に刊行されており、元禄地震の各文献を理解する上で第一級の史料と言うことになるであろう。

§3. 原文献史料と詳細震度データベースの作成

われわれは、元禄地震による江戸市中の詳細震度分布図を描くのに先立って、地震史料集に紹介された原文献の記載から「地点別事象別データベース」を作成する作業に着手した。

原文献からは、地震によって要するにどこで何が起きたかを手がかりにデータベースを作成した。そのデータベースを構成する項目の最小単位を仮に「カード」と呼ぶことにする。もちろんパソコ

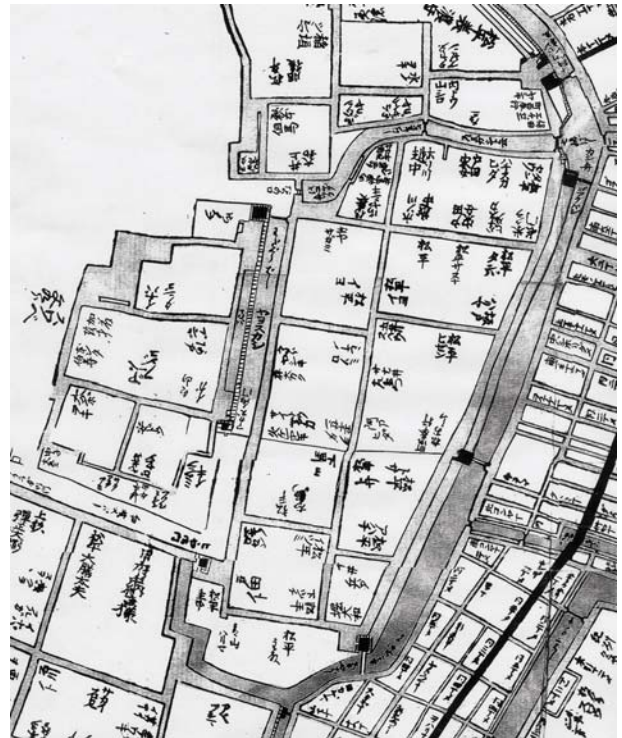


図2.「改撰江戸大絵図」の江戸城域の東に隣接する部分。幕府首脳を構成する高位の大名の屋敷が並んでいる。

Fig.2 Squares east of the Edo Castle, where houses of many prominent member of the government of the Tokugawa Shogunate were arranged.

ンのデータベースソフトが普及する前によく使われた「京大式カード」のように紙でできた本物のカードではないが、これになぞらえることのできるデータベース上の1個の単位項目の記載のかたまりとしての電子的な仮想的なカードである。このようなカードは、記載の対象地点が少しでも変われば別カードとし、また同一地点であっても建物の被害と火災、余震記録のように別の物理的な現象の記載であればおのおの別カードを作成した。

カード上には、史料集の名前(出典)、その史料集でのその記事の記載ページ、原文献名、原記載の内容、原記載での地名表記をまず書き込んだ。そして、「改撰江戸大絵図」や地名辞書(平凡社, 2002, および角川書店, 1988)によってその地点名の現代地図上の地点、または相当町名の範囲を確定した。さらに現代地図によって現代の行政区画での相当現住所名を調べ、その地点、または当時の町の範囲の中心付近の北緯東経をすくなくとも秒の単位まで読み取った。もちろん、たとえば「鶴殿の邸宅」のように地点がもっと精度良く確

定している場合には、そのピンポイントの北緯東経を秒単位までの精度で読み取った。

元禄地震は十一月二十三日の早朝に起きているがその六日後の二十九日には江戸は大規模な火災に見舞われた。各史料集には、この火災も地震との関連を認めて火災に関する大量の記事を載せているが、本研究ではこの火災に関する記事はすべて無視することにした。地震発生の後、六日も経過してから発生した火災では、地震動を推定する手がかりとはならないと考えられるからである。

データベース作成に当たって、遠方で伝聞や風聞を記録したもの、あるいははるか後代に文字化された記事については、その場所で直後に直接体験者や当時の責任ある為政者によって書かれたより信頼度の高い文献で状況把握がカバーされる場合には、これらはすべて無視することとした。今回の研究の作業では、遠方での伝聞や風聞のみに現れた事項を採用した例は結果的には存在しなかった。

古記録の記載から現行の気象庁震度を推定する作業では、宇佐美ら(1994)、中村ら(2003)を参考とした。ただしピンポイントの判断であるため、一定の地域の潰家数の全体数に対する比率という震度推定方法を採用しなかったため、震度7という区分はあられもない。震度6強を最高震度とした。この中には、実際には震度7であった場所も相当数含まれていたものと考えられる。

以上の作業によって、現在の東京都の範囲を対象として、244枚のカードが得られた。そのうち、228枚が現在の東京23区内に関するもので、16枚が町田市、青梅市、および伊豆諸島に関するものである。これらのデータベースを付表として示す。なお、津波に関する記事も同時に得られたので、参考として付表の末尾に載せた。

§4. 個々の地震事象の記録地点の位置の精度

古記録上の地名表記が江戸城を構成する建物、大名や旗本の屋敷、寺院神社、橋等の場合には、その敷地の大きさの位置精度で2万5千分の一の地図上に確定することが出来る。旗本の屋敷や江戸市中の寺院神社の敷地はおおざっぱに平均20~30メートル四方程度の面積であるから、位置確定の分解能精度もこの程度であることになる。緯度経度の1秒はおおよそ30mであるから、北緯東経の数値で秒の単位まで有意であることになる。

2万5千分の一地図上では1ミリメートルの誤差範囲内で確定するので、そこで震度が推定出来ればそれはピンポイント震度が確定したと称して差し支えないであろう。また大名屋敷はこれよりやや規模が大きいが、それでも100m四方を超える敷地規模を持つ大名屋敷は徳川将軍家の親藩や加賀藩屋敷などきわめて限られ、ほぼ緯度経度で3秒以内の位置分解能精度に収まるであろう。

2万5千分の一の地図上では2、3ミリの誤差があることになるが、これもピンポイントで位置が確定したと称して差し支えないであろう。これに対して、原記録からは江戸を構成する町名しか分からないものがある。江戸時代の江戸の町名が現在の地図のとこからどこまでの範囲に相当するかについては、角川書店(1988)、および平凡社(2002)、にかなりくわしく記されている。ときには現在のこの番地までが江戸時代のA町で、その次の番地からは隣のB町であった、等ということまで分かる場合もある。この場合、江戸時代の町内であることは判明するが、その町の中のどの点かが不明な場合には、その範囲は大名屋敷の敷地の面積より大きく広がっている。おおざっぱに言って、現代の地図の「1個の丁目」の大きさで、100~200m程度の位置精度しか得られない。2万5千分の一地図上で4~8mmの誤差が免れないことになるであろう。このケースではピンポイント震度とは言いにくいので、「準ピンポイント」の震度と呼ぶことにしたい。

§5. 大名小路の被災記事にみる現代地図プロット作業の実例

それでは、原古文書記録から現代地図の上に詳細震度分布をプロットする実例を一つ説明することにしよう。東京大学地震研究所(1982)の23ページの下段には、「文鳳堂雑纂 変災部五十五」の中の「大名屋敷 御旗本屋敷破損如左」で始まる、個々の大名・旗本屋敷の被災状況を伝える次の記事が現れる。

外長屋潰	鶯殿十郎左衛門	●
塀損・本宅半潰	蜂屋主斗	●
門・塀潰	大沢主膳	●
練塀崩	中山主馬	●
長屋・居宅共損	三枝日向守	●
長屋少塀トモニ損ス	三好勘之丞	●
長屋損	溝口摂津守	●

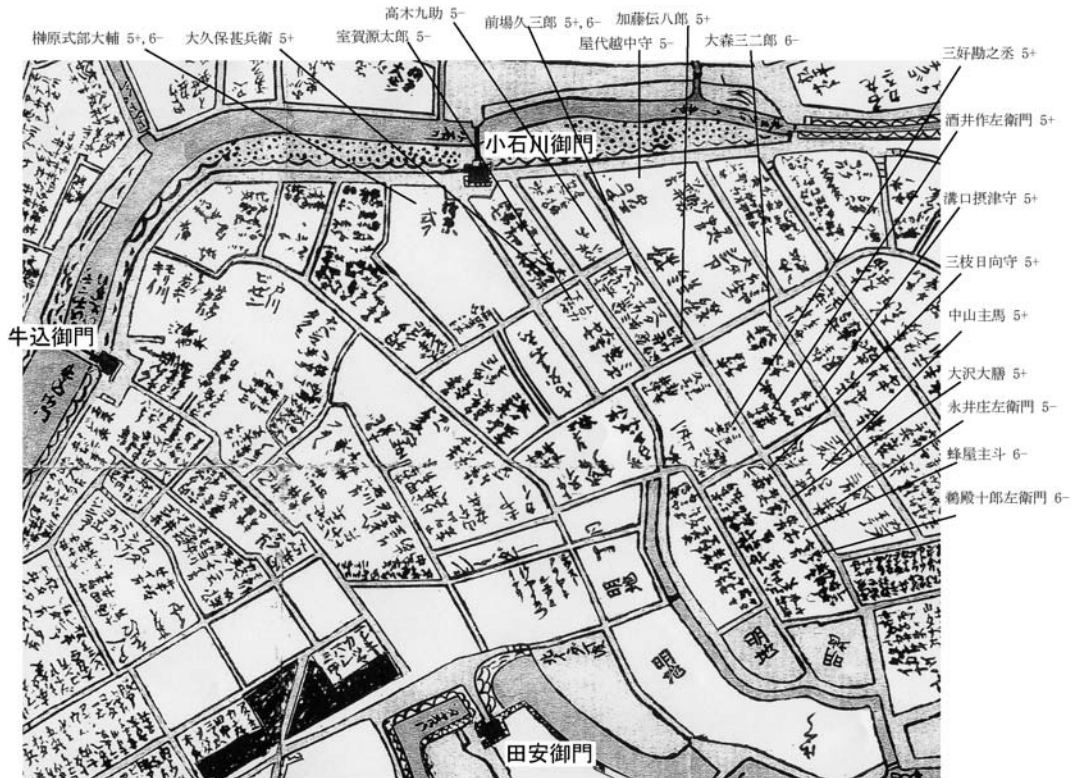


図3 「改撰江戸大絵図」の江戸城域の北に隣接する地域。この地域は当時多くの大名屋敷が存在した。鶴殿十郎左衛門から屋代越中守にかけての通りは、現在の千代田区専修大学付近から三崎町・水道橋駅までの通りを表す。

Fig.3 Squares north of the Edo Castle, where a lot of houses of Daimyo existed. A street between the houses of Udono-Jurozaemon and Yashiro-Echunokami on the above map, "Kaisen-Edo-Ooezu", is now the street between the Senshu University and Misaki-cho town (JR Suidobashi station.)

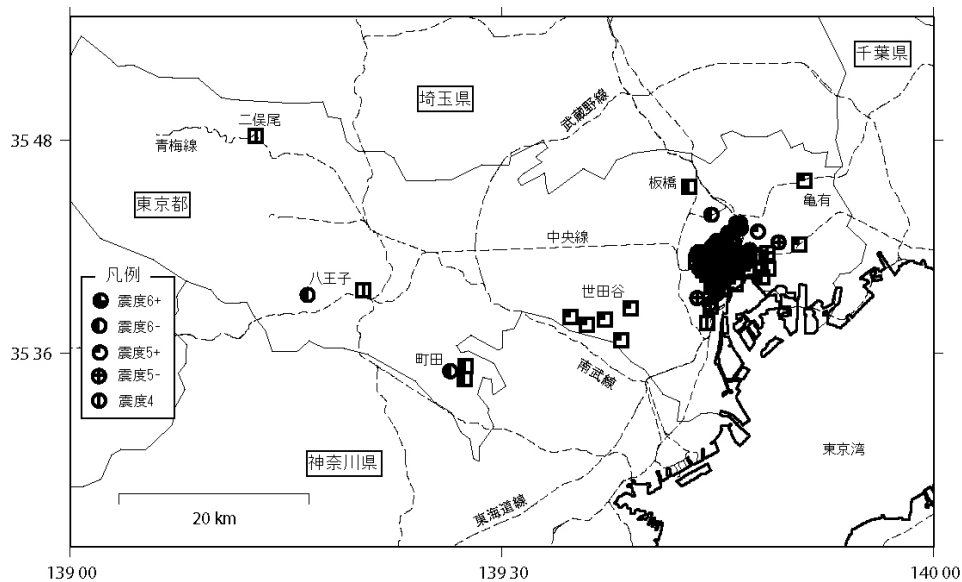


図4 本研究で明らかになった元禄地震による東京都領域内（島嶼はのぞく）の震度分布。四角マークでプロットしたものは位置が江戸時代の町名までしか半明しないもので、位置の精度が円でプロットしたものより劣るもの。円でプロットしたものの位置精度は30m程度で「ピンポイント震度」、四角でプロットしたものの位置精度は100~200m程度で「準ピンポイント震度」を示している。本文§4参照。

Fig.4 Distribution of seismic intensities of the Genroku earthquake in the in the main region of Tokyo Metropolitan District. Circles show the seismic intensity estimated points where the error of the location is within 30meters, while that those of squares it is within 100-200meters.

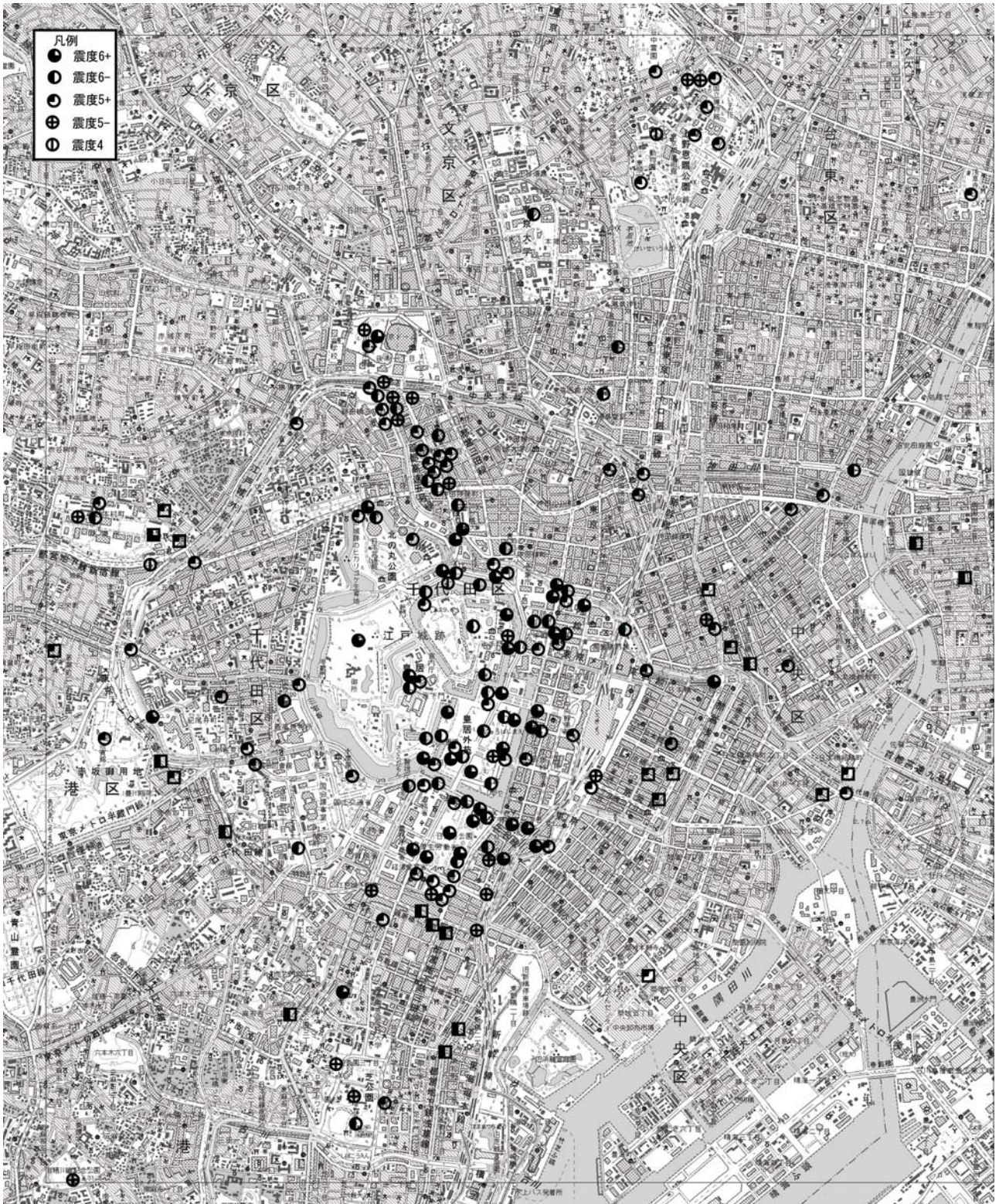


図 5 本研究で明らかになった元禄地震の皇居周辺の震度分布. 四角マークでプロットしたものは位置が江戸時代の町名までしか半明しないもので、位置の精度が円でプロットしたものより劣るもの. 円でプロットしたものの位置精度は30m程度で「ピンポイント震度」、四角でプロットしたものの位置精度は100~200m程度で「準ピンポイント震度」を示している. 本文§4参照.

Fig. 5 Distribution of seismic intensities of the Genroku earthquake around the Imperial Palace. Circles show the seismic intensity estimated points where the error of the location is within 30meters, while that those of squares it is within 100-200meters.

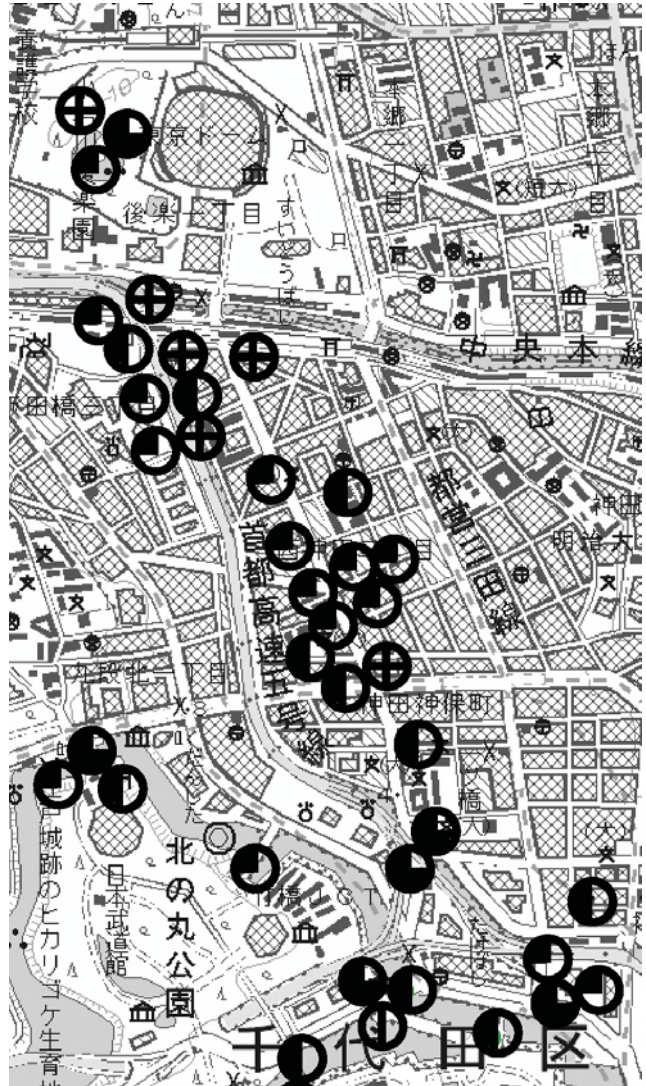
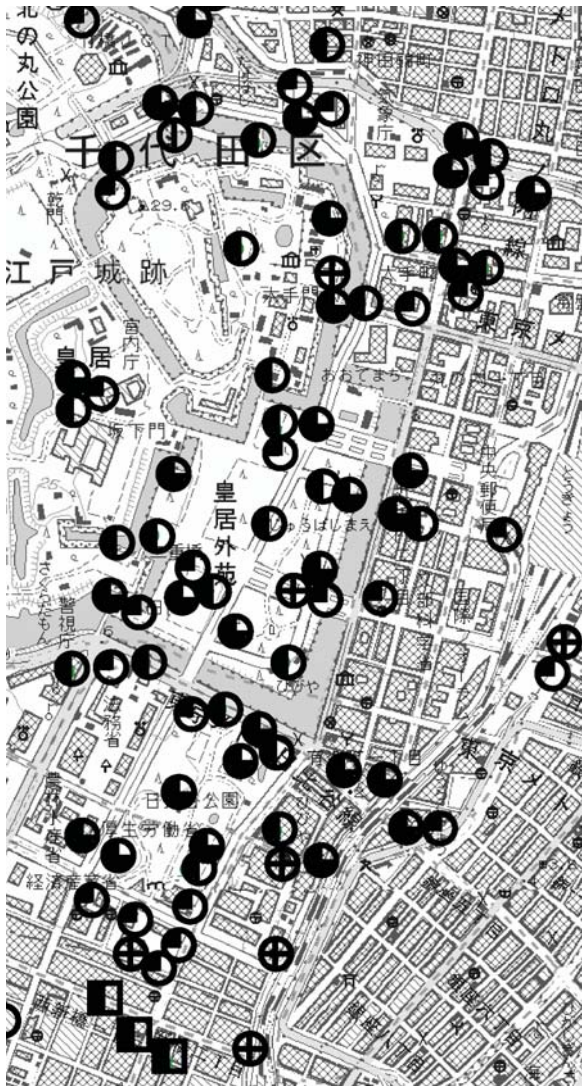


図6 (左図) 本研究で明らかになった元禄地震の皇居東側の詳細震度分布

図7 (右図) 本研究で明らかになった元禄地震の皇居北側の詳細震度分布

Fig.6 (left) Distribution of seismic intensities of the Genroku earthquake in the east part of the Imperial Palace.

Fig.7 (right) Distribution of seismic intensities of the Genroku earthquake in the north part of the Imperial Palace.

- | | | |
|----------|--------|---|
| 長屋損 | 加藤伝八郎 | ● |
| 外塀本宅トモノ損 | 大久保甚兵衛 | ● |
| 長屋損 | 星合伊左衛門 | ● |
| 長屋・居宅共損 | 前場久三郎 | ● |
| 長屋少損 | 高木九助 | ● |
| 塀損・本宅共 | 石原勘左衛門 | ● |
| 長屋少損 | 日下部三十郎 | ● |
| 長屋小損 | 酒井作左衛門 | ● |
| 長屋潰 | 大森三二郎 | ● |
| 長屋少損 | 久貝因幡守 | ● |
| 長屋壁少落 | 屋代越中守 | ● |
| 長屋塀損 | 室賀源太郎 | ● |
| 塀損長屋少々潰 | 榊原式部大輔 | ● |

● ここには地震被害を受けた大名・旗本の名前が20名分載せられている。このうち●をつけた16名の名前は「改撰江戸大絵図」の絵図の当時の大名小路の街路、すなわち現在の千代田区専修大学付近から三崎町・水道橋駅西口にかけての道筋にずらりと並んで見いだすことができるのである(図3)。この被害状況の記載からおのその屋敷地での震度を推定することができるので、この文献史料によって16点のピンポイント震度を知ることができる。

§6. 元禄地震のピンポイント詳細震度分布図

以上の作業によって得られた東京都の領域内

での元禄地震による震度分布図を図4～図7として掲げておく。各図で震度を表すマークの意味は共通であって、図4, 5の凡例を参照されたい。また、各図において円の記号で示したのは屋敷や建物が文字通りピンポイントとして現代地図上にプロットされたものである。これに対して正方形で示したものは、江戸時代の町名での震度が判明しているもので、「準ピンポイント」地点であることを示している。

図4は東京都の全体図であって、江戸の中心部を離れた亀有、世田谷区、町田市、八王子市、青梅市二俣尾などでの震度を示している。山手線内部から台東区にかけては旧江戸の領域であって、本研究で詳細震度をもっとも密に判明した地域である。その拡大図を図5に示しておく。皇居と東京駅にはさまれた日比谷、丸の内・大手町・呉服橋、さらにそこから江戸城（皇居）の北縁に沿って西に折れて竹橋・北の丸のあたりで軒並み震度6強を示している（図6）。この区域の南に連なる現代の新橋駅・面の門付近の震度も大きかったことがわかる。これに対して江戸城の北西方向である市ヶ谷、四谷方向では震度はおおむね5強以下であって、比較的被害は軽かった。

前節に例として取り上げた大名小路（竹橋・水道橋駅間）に並ぶ大名・旗本屋敷の被害の詳細は図7に示しておいた。現代地図の街路区画の1個1個を区別して詳細な震度分布が得られており、各街区のきわめてローカルな地質条件を敏感に反映していることが示唆される。

§7. むすび

ここに得られた歴史地震に対する詳細震度分布の結果は、近年急速に発達してきた、地震による滑り断層面と滑り量を与えて震度分布を推定する地震工学の手法を応用することができるであろう。それによって、元禄地震の断層モデルの推定により確かな貢献を与えることができよう。本研究で得られた図は、東京都内での将来の地震対策に大きく貢献するものであることは間違いないところである。歴史地震史料という、近代的な意味での計測結果ではない研究材料もまた、地震学、地震工学の最新の理論的成果と呼応し合ってそれらの学問分野の進展に貢献することができるのである。

文 献

- 羽鳥徳太郎・相田 勇・梶浦欣二郎, 1973, 南関東周辺における地震津波, 関東大震災 50 周年論文集, 地震研究所, 57-66.
- 平凡社, 2002, 「東京都の地名」, 日本歴史地名大系第 13 巻, 平凡社, 1453pp.
- 人文社, 2003, 「改撰江戸大絵図」(元禄十五年, 1702), 1 枚.
- 角川書店(「角川日本地名大辞典」編集委員会, 代表 竹内理三), 1988, 「角川日本地名大辞典・13 東京都」, 1253pp.
- 村上嘉謙・都司嘉宣, 2003, 津波記録を考慮した元禄関東地震(1703 年 12 月 31 日)の地震断層モデル, 月刊海洋, 号外, 28, 161-175
- 武者金吉, 1941, 「増訂・大日本地震史料・第二巻」, 文部省震災予防評議会, 754pp.
- 中村 操, 茅野一郎・唐鎌郁夫, 松浦律子, 西山昭人, 2003, 安政江戸地震(1855/11/11)の江戸市中の被害, 歴史地震, 18, 77-96.
- 中村 操・茅野一郎・松浦律子, 2005, 安政江戸地震(1855)の江戸市中の消失面積の推定, 歴史地震, 20, 223-232.
- 武村雅之・諸井孝文, 2003, 1923 年関東地震に対する東京 23 区内(旧郡部)での詳細震度分布, 歴史地震, 18, 97-115.
- 東京大学地震研究所, 1982, 「新収・日本地震史料・第二巻別巻」, 290pp.
- 東京大学地震研究所, 1989, 「新収・日本地震史料・補遺別巻」, 992pp.
- 東京大学地震研究所, 1994, 「新収・日本地震史料・続補遺別巻」, 1228pp.
- 都司嘉宣・中村 操・武村雅之・諸井孝文, 2003, 江戸・東京の地震, ドキュメント災害史・1703-2003/国立歴史民俗博物館, 41-55
- 都司嘉宣, 2003, 元禄地震 300 年, 地震ジャーナル, 36, 1-7.
- 都司嘉宣, 2004-a, 元禄地震(1703)とその津波による千葉県内各集落での詳細被害分布, 歴史地震, 19, 8-16, 2004
- 都司嘉宣, 2004-b, 江戸・東京の震度分布と中世江戸地形図, 国づくりと研修, 105, 夏の号, 13-15
- 宇佐美龍夫・渡辺 健・西村 功, 1994, わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図について, 歴史地震, 10, 63-75.
- 宇佐美龍夫, 1996, 安政江戸地震の精密震度分布図.

付表 元禄地震の東京都内の地震・津波記事。12 列目の「ピ」欄は「ピンポイント情報か準ピンポイント情報か」欄のことである。この欄の数字が1のときは、その緯度経度における震度がまさにその点での震度（ピンポイント情報）であることを意味し、数字が2のときは、位置情報がピンポイントではなくある程度の広がりを持っている（準ピンポイント情報）ことを示す。なお、緯度経度は世界測地系に準拠した。

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ピ 震度	古文書の記述	出典	ペー ジ数	文書名	
			度	分	秒	度	分	秒							
港区	芝3丁目	芝神(新)堀端	139	44	57	35	39	5	芝2丁目と芝3丁目の境界	1	6+	地大に破損す	新収2-別	25	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
港区	虎ノ門3丁目	天徳寺門前	139	44	51	35	39	51	天徳寺門前	1	6+	名主孫兵衛衝けに、天徳寺門前町で17軒地震に崩	新収2-別	52	[炎変温古録]
千代田区	内幸町1丁目	本多中務大輔屋敷	139	45	13	35	40	21	日比谷音楽堂	1	6+	北表長屋所々にて六十余間倒	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	内幸町1丁目	山下御門箱番所	139	45	35	35	40	21	みゆき座、JRの付近	1	6+	山下御門箱番所箱番所潰	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
千代田区	霞ヶ関1丁目	永井伊賀守屋形	139	45	10	35	40	22	東京家庭裁判所	1	6+	外桜田で甲府中納言、永井伊賀守、酒井石見守、酒井彦岐守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	日比谷公園	酒井彦岐守屋形(旗本)	139	45	23	35	40	22	日比谷公園内	1	6+	外桜田で甲府中納言、永井伊賀守、酒井石見守、酒井彦岐守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	有楽町1丁目	青山播磨守屋形	139	45	30	35	40	23	日生劇場	1	6+	日比谷御門内で青山播磨守、松平下野守、戸田能登守、土屋相模守、土屋山城守、秋元但馬守、井上大和守、松平右京太夫、松平美濃守、小笠原佐渡守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	有楽町2丁目	数寄屋橋御門御番所	139	45	45	35	40	23	数寄屋橋交差点	1	6+	数寄屋橋御門御番所倒	新収2-別	134	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	日比谷公園	酒井石見守屋形	139	45	20	35	40	26	日比谷公園内松本樓付近	1	6+	外桜田で甲府中納言、永井伊賀守、酒井石見守、酒井彦岐守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	有楽町1丁目	戸田能登守屋形	139	45	37	35	40	28	日比谷パークビル	1	6+	日比谷御門内で青山播磨守、松平下野守、戸田能登守、土屋相模守、土屋山城守、秋元但馬守、井上大和守、松平右京太夫、松平美濃守、小笠原佐渡守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	有楽町1丁目	松平下野守屋形	139	45	42	35	40	28	有楽町駅西口南、電気ビルディング	1	6+	日比谷御門内で青山播磨守、松平下野守、戸田能登守、土屋相模守、土屋山城守、秋元但馬守、井上大和守、松平右京太夫、松平美濃守、小笠原佐渡守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	日比谷公園	甲府居所	139	45	28	35	40	30	日比谷公園第一花壇	1	6+	甲府居所過半崩れ	史料2	38	[基ひろ公記]
千代田区	日比谷公園	甲府中納言屋形	139	45	28	35	40	30	日比谷公園第一花壇	1	6+	外桜田で甲府中納言、永井伊賀守、酒井石見守、酒井彦岐守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	日比谷公園	日比谷御門	139	45	31	35	40	38	環境庁皇居外苑管理事務所	1	6+	日比谷御門大番所潰、塀残らず倒れ、当番土方市正家来徒目傷1、小人傷2、家中1人傷、足軽4人傷	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
千代田区	皇居外苑	柳生備前守屋敷	139	45	26	35	40	41	皇居外苑補正成像西側	1	6+	内座敷等残らずがみ長屋七十間余倒井堀土蔵潰	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]
千代田区	千代田	桜田門	139	45	13	35	40	43	桜田門前	1	6+	大きに傾き鉄をまいた御門の柱さげ、20間余の棟木震り打ち	新収2-別	57	[元正間記]
千代田区	皇居外苑	大久保隠岐守屋敷	139	45	21	35	40	44	二重橋前の皇居外苑	1	6+	地震につき大久保隠岐守屋敷13人死	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	皇居外苑	馬場先御門	139	45	34	35	40	44	馬場先門内	1	6+	大番所、箱番所潰、死1、傷1、御門外御堀南の方石垣5、6間崩	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
千代田区	丸の内2丁目	土屋相模守屋形	139	45	43	35	40	50	東京海上ビル新館	1	6+	日比谷御門内で青山播磨守、松平下野守、戸田能登守、土屋相模守、土屋山城守、秋元但馬守、井上大和守、松平右京太夫、松平美濃守、小笠原佐渡守、各屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	千代田	喰違御門	139	43	55	35	40	53	ホテルニューオオタ敷地北西角、上智大学グラウンド南東角	1	6+	下御勘定部屋より喰違御門まで残らず潰、三の丸土蔵、揺りつぶし、大御留守居与力番所、二の丸銅御門冠木番所、紅葉山にかぶき番所、内桜田御門番所、大手腰掛け、西丸下御殿が潰、破損	新収2-別	76	[東京市史稿 皇城]
千代田区	皇居外苑	阿部豊後守藩邸	139	45	36	35	40	53	二重橋前北側内堀通り上	1	6+	西丸下の大久保隠岐守、阿部豊後守、加藤越中守、稲葉丹波守、柳生備中守、各藩邸屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	皇居外苑	加藤越中守藩邸	139	45	19	35	40	54	坂下門南	1	6+	西丸下の大久保隠岐守、阿部豊後守、加藤越中守、稲葉丹波守、柳生備中守、各藩邸屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)
千代田区	丸の内2丁目3	八重洲河岸	139	45	45	35	40	54	郵船ビル	1	6+	地大に破損す	新収2-別	25	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]
千代田区	皇居外苑	稲葉丹波守藩邸	139	45	30	35	40	58	桔梗門南側	1	6+	西丸下の大久保隠岐守、阿部豊後守、加藤越中守、稲葉丹波守、柳生備中守、各藩邸屋形みじんとなる	新収2-別	95	[震火記]([江戸の災害情報]に引用)

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ピ 震度	古文書の記述	出典 ページ数	文書名	
			度	分	秒	度	分	秒						
千代田区	皇居外苑	和田倉御門	139	45	34	35	40	59	1	6+	内堀通り・和田倉門交差点	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	千代田	紅葉山御番所	139	45	9	35	41	2	1	6+	宮内庁ビル西端付近	新収2-別	133	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	千代田	紅葉山下冠木番所	139	45	9	35	41	2	1	6+	宮内庁ビル西端付近	新収2-別	98	[徒目付千坂氏覚書](「江戸五百年史話」に引用)。
中央区	日本橋1丁目	元四日市町土手蔵	139	46	32	35	41	2	1	6+	野村證券本社付近	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	内桜田御門	139	45	29	35	41	3	1	6+	桔梗門	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	千代田	追手門御番所	139	45	37	35	41	10	1	6+	大手門皇居側	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	吹上御番所	139	44	54	35	41	11	1	6+	吹上御所	新収2-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目1	秋元但馬守屋形(老中)	139	45	50	35	41	12	1	6+	三和銀行東京本部、平将門首塚南	新収2-別	95	[震火記](「江戸の災害情報」に引用)
千代田区	千代田	二の丸冠木番所	139	45	26	35	41	14	1	6+	旧二の丸、白鳥塚の東側	新収2-別	98	[徒目付千坂氏覚書](「江戸五百年史話」に引用)。
千代田区	千代田	三の丸	139	45	35	35	41	17	1	6+	旧三の丸	新収2-別	76	[東京市史稿 皇城]
千代田区	千代田	三丸の土蔵	139	45	35	35	41	17	1	6+	旧三の丸	新収7-別	99	[徒目付千坂氏覚書](「江戸五百年史話」に引用)。
千代田区	大手町1丁目9	松平美濃守屋形(柳沢)	139	45	57	35	41	19	1	6+	経団連会館、日経新聞、大手町NTTビル、東京国際郵便局	新収2-別	95	[震火記](「江戸の災害情報」に引用)
千代田区	大手町1丁目3	松平右京太夫屋形	139	45	50	35	41	21	1	6+	首都高速神田橋ランプの下	新収2-別	95	[震火記](「江戸の災害情報」に引用)
千代田区	大手町1丁目	神田橋御門	139	45	51	35	41	22	1	6+	首都高速道路神田橋ランプ下	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	千代田	平川口番所	139	45	28	35	41	23	1	6+	毎日新聞社南側	新収2-別	133	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	千代田	竹橋御門	139	45	19	35	41	26	1	6+	竹西詰め	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	大手町1丁目4	小笠原佐渡守屋形	139	45	33	35	41	26	1	6+	丸紅本社ビル	新収2-別	95	[震火記](「江戸の災害情報」に引用)
千代田区	一橋1丁目	雉子橋御門番所	139	45	22	35	41	34	1	6+	PS九段ビルと住友商事竹橋ビルの間	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	一橋2丁目	一橋御春屋	139	45	23	35	41	36	1	6+	共立女子中学+一橋中学敷地	新収6-別	98	[徒目付千坂氏覚書](「江戸五百年史話」に引用)。
千代田区	北の丸公園	田安御門	139	44	57	35	41	40	1	6+	田安門・日本武道館側	新収2-別	152	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ビ 震 度	古文書の記述	出典	ペ ー ジ 数	文書名	
			度	分	秒	度	分	秒							
文京区	小石川1丁目	水戸殿御門前	139	44	59	35	42	20	小石川後楽園	1	6+	200間ばかり倒れたり	新収2-別	57	[元正間記]
新宿区	市ヶ谷八幡町	八幡脇(市ヶ谷八幡か)	139	43	56	35	41	34	市ヶ谷八幡西の緯度経度を読んだ。	2	6+	町屋50間ゆり崩	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
町田市	野津田町	花厳院(野津田)	139	26	39	35	35	17	花厳院	1	6-	花厳院(野津田にあり)などは、庫裏厩残らず揺りくずし、客殿も板敷き半分揺り込む	新収2-別	106	[野津田村年代記](町田市史料集、第5集、近世庶民史料編 II)
八王子市	元八王子町3丁目	元八王子村	139	16	32	35	39	17	「宮ノ前」交差点	1	6-	西明寺本堂地震により倒壊	新収2-別	108	[宝生寺文書]
港区	芝公園4丁目	増上寺	139	44	53	35	39	20	増上寺	1	6-	増上寺築地残らず倒れる。金石の灯笼転倒す	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	日比谷公園	池田帯刀屋敷(いけだたてわき)	139	45	21	35	40	20	日比谷公会堂北側駐車場	1	6-	所々大破	新収2-別	25	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]
千代田区	永田町2丁目	丹羽五郎三郎屋敷	139	44	37	35	40	23	首相官邸	1	6-	丹羽五郎三郎屋敷玄関表、長屋ゆり崩	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	有楽町1丁目	青山播磨守屋敷	139	45	30	35	40	23	日生劇場	1	6-	青山播磨守屋敷内証向之家并表へ通口玄関中長屋其外所々大破	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]
千代田区	日比谷公園	甲府の御館	139	45	28	35	40	30	日比谷公園第一花壇	1	6-	大破に及び居住困難となる	新収2-別	61	[元禄十六年関東大地震記]
千代田区	日比谷公園	松平大膳太夫屋敷(毛利)	139	45	24	35	40	34	日比谷公園内、北西、日比谷画廊	1	6-	松平大膳太夫屋敷表通り崩	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	霞ヶ関2丁目	永井豊熊	139	45	8	35	40	37	警視庁	1	6-	御堀前屋敷井上周防、酒井駒太郎、永井豊熊何も表屋内ともに揺り崩れ。玄関何も揺り崩れ	新収4-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	霞ヶ関1丁目	御上屋敷(上杉)	139	45	16	35	40	38	法曹会館	1	6-	表瓦屋根、御長屋御登城御門より表門まで内の方へ三尺余傾き。御登城御門の扉1枚はずれ、片扉地面にめり込むこと約1尺。	新収2-別	119	[鸚鵡編 上](山形県史料篇 五)
千代田区	日比谷公園	日比谷御門	139	45	31	35	40	38	環境庁皇居外苑管理事務所	1	6-	日比谷御門所々多門揺り崩し	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	皇居外苑	大久保隠岐守脇長屋	139	45	23	35	40	44	二重橋前の皇居外苑	1	6-	大久保隠岐守脇長屋崩	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	西丸下御殿	139	45	13	35	40	48	二重橋南	1	6-	下御勘定部屋より喰違御門まで残らず潰、三の丸土蔵、揺りつぶし、大御留守居与力番所、二の丸銅御門冠木番所、紅葉山なかぶき番所、内桜田御門番所、大手腰掛け、西丸下御殿が潰、破損	新収2-別	76	[東京市史稿 皇城]
千代田区	皇居外苑	本多伯耆守屋敷(若年寄)	139	45	17	35	40	49	正門石橋のすぐ北側	1	6-	本多伯耆守玄関ゆり崩し	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	皇居外苑	阿部豊後守上屋敷	139	45	29	35	40	50	二重橋前北側内堀通り上	1	6-	阿部豊後守上屋敷玄関ならびに内長屋倒	新収2-別	134	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	丸の内2丁目	土屋相模守屋敷	139	45	43	35	40	50	東京海上ビル新館	1	6-	土屋相模守屋敷玄関崩	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	皇居外苑	阿部豊後守屋敷	139	45	36	35	40	53	和田倉門交差点南西100m	1	6-	阿部豊後守屋敷玄関ゆり崩し	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	半蔵御門	139	44	33	35	40	57	半蔵門	1	6-	常磐橋・神田橋・一橋・雉子橋・外桜田・半蔵の各門傾きあるいは崩れぬ	新収2-別	1	[楽只堂年録]
千代田区	皇居外苑	稲葉丹後守屋敷	139	45	30	35	40	58	桔梗門南側	1	6-	表長屋少内長屋大破	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	皇居外苑	稲葉丹後守上屋敷	139	45	30	35	40	58	桔梗門南側	1	6-	稲葉丹後守上屋敷玄関ならびに内長屋倒	新収2-別	134	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	千代田	紅葉山下冠木番所	139	45	9	35	41	2	宮内庁ビル西端付近	1	6-	下御勘定部屋より喰違御門まで残らず潰、三の丸土蔵、揺りつぶし、大御留守居与力番所、二の丸銅御門冠木番所、紅葉山なかぶき番所、内桜田御門番所、大手腰掛け、西丸下御殿が潰、破損	新収2-別	76	[東京市史稿 皇城]
千代田区	千代田	内桜田御門番所	139	45	29	35	41	3	桔梗門	1	6-	下御勘定部屋より喰違御門まで残らず潰、三の丸土蔵、揺りつぶし、大御留守居与力番所、二の丸銅御門冠木番所、紅葉山なかぶき番所、内桜田御門番所、大手腰掛け、西丸下御殿が潰、破損	新収2-別	76	[東京市史稿 皇城]
千代田区	丸の内1丁目	御畳倉	139	45	39	35	41	9	大洋漁業、協和本店ビルの西側、内堀通り	1	6-	大手先腰掛け、御畳倉少々揺り崩れ	新収3-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	丸の内1丁目	秋元但馬守上屋敷	139	45	52	35	41	12	三和銀行東京本部、平将門首塚南	1	6-	秋元但馬守上屋敷玄関ならびに内長屋倒	新収2-別	134	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ピ 震 度	古文書の記述	出典	ペ ー ジ 数	文書名	
			度	分	秒	度	分	秒							
千代田区	大手町2丁目7	常磐橋御門	139	46	9	35	41	13	常盤橋公園	1	6-	常磐橋御門少々損し、大番所潰かかり、堀石垣崩	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	千代田	二の丸銅御門冠木番所	139	45	26	35	41	14	旧二の丸、白鳥濠の東側	1	6-	下御勘定部屋より喰違御門まで残らず潰、三の丸土蔵、揺りつぶし、大御留守居与力番所、二の丸銅御門冠木番所、紅葉山下かぶき番所、内桜田御門番所、大手腰掛け、西丸下御厩が潰、破損	新収2-別	76	[京都市史稿 皇城]
千代田区	大手町1丁目3	松平肥後守屋敷(会津藩)	139	45	43	35	41	15	三井物産ビル	1	6-	松平肥後守屋敷表向長屋前	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目	稲垣対馬守屋敷	139	45	47	35	41	15	三井生命ビル	1	6-	稲垣(力)対馬守屋敷表長屋玄関前	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目	稲垣対馬守上屋敷	139	45	47	35	41	15	三井生命ビル	1	6-	稲垣対馬守上屋敷玄関ならびに内長屋倒	新収2-別	134	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	千代田	北羽根橋	139	45	13	35	41	21	北の丸口の橋	1	6-	城内外多門半は潰、大手・桜田・紅葉山・北羽根橋内外多門崩前	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目3	松平右京太夫屋敷	139	45	52	35	41	21	首都高速神田橋ランプの下	1	6-	松平右京太夫屋敷御堀端通り崩	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	平川口御門	139	45	28	35	41	23	毎日新聞社南側	1	6-	御門外通り崩残らず潰	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	千代田	竹橋	139	45	21	35	41	26	橋の上	1	6-	1丈ほど水道の上揺窪	新収2-別	134	[地震記 完(西尾市岩瀬文庫)]
千代田区	神田錦町3丁目	吉田意安屋敷	139	45	35	35	41	31	正則学園敷地	1	6-	外長屋潰	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-43p]
新宿区	市ヶ谷本村町	尾俣御屋敷	139	43	41	35	41	39	防衛庁庁舎付近	1	6-	市ヶ谷屋敷。局の六間長屋打ちひしげ	新収2-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	北の丸公園	田安御門	139	44	59	35	41	40	田安門・日本武道館側	1	6-	田安御門所々多門揺り崩し	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	一橋丁目	御春屋(おつきや)	139	45	23	35	41	42	共立女子中学+一橋中学敷地	1	6-	御春屋御長屋半分余崩	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-44p]
千代田区	神田神保町2丁目	鶴殿十郎左衛門屋敷	139	45	17	35	41	46	「専大前」交差点北西角	1	6-	外長屋潰	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-43p]
千代田区	神田神保町3丁目	蜂屋主斗屋敷	139	45	17	35	41	48	神田朝日ビル	1	6-	塀損、本宅半潰	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-43p]
台東区	柳橋1丁目14	西旅籠町	139	47	14	35	41	50	JR浅草橋駅東口の線路沿い東側	1	6-	平右衛門借家人六兵衛娘いわ8才と姥ゆき40才土蔵崩れて死去	新収2-別	53	[災変温古録]
千代田区	神田神保町2丁目6	大森三二郎屋敷	139	45	16	35	41	58	日大法学部図書館	1	6-	長屋潰	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-43p]
千代田区	三崎町3丁目	前場久三郎屋敷	139	45	4	35	42	4	ニチレイ付近	1	6-	長屋・居宅とも損潰	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-43p]
千代田区	飯田橋3丁目10	榊原式部大輔屋敷	139	45	0	35	42	8	JR飯田橋橋操車場	1	6-	江戸御屋敷大破に及び下屋敷への移住の願いをだし、移る	新収2-別	130	[榊原藩日記(江戸)]
文京区	湯島3丁目	湯島天神下三組町	139	46	7	35	42	18	「三組坂下」交差点西側、江戸やホテル付	1	6-	麴屋三右衛門届けに、地震で麴室(こうじむろ)が壊れ、使用人市兵衛十四才が死去した	新収2-別	52	[災変温古録]
文京区	本郷7丁目	本郷(前田家上屋敷)	139	45	44	35	42	49	東京大学敷地	1	6-	本郷・巢鴨・平尾・深川この四ヶ所之御屋敷倒ル、人損はなし(地震の被害である、火事のことは原文はふれていない)	新収2-別	108	[変異日記]
文京区	本駒込6丁目1-6	巢鴨(前田家下屋敷)	139	44	35	35	43	50	六義園の西隣～白山通り全域	1	6-	本郷・巢鴨・平尾・深川この四ヶ所之御屋敷倒ル、人損はなし(地震の被害である、火事のことは原文はふれていない)	新収2-別	108	[変異日記]
町田市	野津田町	野津田村(のづた)	139	26	48	35	35	10	野津田神社付近の緯度経度を読んだ。	2	6-	濃家49軒、半壊は数知れず。(享保2年(1717)で家数142軒、地名辞典、平凡社)	新収2-別	105	[野津田村年代記](町田市史料集、第5集、近世庶民史料編 II)
町田市	野津田町	野津田村	139	27	27	35	35	14	「川島」の集落の緯度経度	2	6-	川島谷で200間余ビヤク打甚兵衛田三反歩ほど押し埋まり田山になる	新収2-別	105	[野津田村年代記](町田市史料集、第5集、近世庶民史料編 II)
港区	東新橋2丁目12、新橋6丁目23、浜松町1丁目1・10、芝大門1丁目3	宇田川町	139	45	18	35	39	37	「新橋6」交差点の北緯東経を読んだ。	2	6-	弥兵衛の貸家五間口の家1軒、五兵衛所有の十間口の家一軒崩れ	新収2-別	53	[災変温古録]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ビ 震 度	古文書の記述	出典 ペー ジ数	文書名	
			度	分	秒	度	分	秒						
港区	新橋5・6 丁目・東新 橋2丁目	芝居町 (柴井町)	139	45	22	35	39	42	第1京浜沿い	2	6-	新収 2-別	53	[災変温古録]
港区	虎ノ門5 丁目	神谷町	139	44	34	35	39	45	大養寺の緯度 経度	2	6-	新収 2-別	54	[災変温古録]
中央区	港区新橋 2丁目	兼房町 (けんぼう ちよう)	139	45	19	35	40	3	新橋2丁目3- 5、10-14番地	2	6-	新収 2-別	54	[災変温古録]
港区	西新橋1 丁目13- 15の東部	桜田久保 町	139	45	14	35	40	6	不二ビルの緯 度経度を読ん だ。	2	6-	新収 2-別	56	[災変温古録]
港区	西新橋1 丁目	備前町	139	45	11	35	40	9	西新橋一丁目 の地理的中心 部を読んだ。	2	6-	新収 2-別	54	[災変温古録]
江東区	富岡2丁目	三十三間 堂町	139	48	4	35	40	17	富岡八幡宮の 東隣	2	6-	新収 2-別	53	[災変温古録]
港区	赤坂3丁目	赤坂新町 1丁目	139	44	16	35	40	26	赤坂三丁目南 部の緯度経度 を読んだ。	2	6-	新収 2-別	55	[災変温古録]
港区	元赤坂1 丁目7	紀伊侯御 成門	139	43	58	35	40	43	元赤坂タワー ズの北緯東経 を読んだ。	2	6-	新収 2-別	151	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左 衛門重章の日記)]
江東区	三好3・4 丁目、平 野3・4丁 目	深川(前 田家抱屋敷)	139	48	29	35	40	47	現代美術館の 緯度経度を読 んだ	2	6-	新収 3-別	108	[変異日記]
中央区	日本橋人 形町1丁目・日本 橋小網町	甚左衛門 町	139	46	44	35	41	5	日本橋1丁目 と日本橋小網 町の境界の緯 度経度を読ん だ。	2	6-	新収 2-別	52	[災変温古録]
墨田区	千歳2.3丁 目	本所松井 町一丁目	139	47	44	35	41	25	要津禅寺の緯 度経度を読ん だ。	2	6-	新収 2-別	55	[災変温古録]
墨田区	両国2丁目	本所相生 町1丁目	139	47	30	35	41	33	井筒部屋、出 羽の海辺屋の あたり	2	6-	新収 2-別	54	[災変温古録]
墨田区	本所	本所	139	48	6	35	42	14	源光寺の脇の 緯度経度を読 んだ。	2	6-	新収 2-別	119	[鶏肋編 上](山形県史資 料篇 五)
板橋区	加賀1・2 丁目、板 橋3丁目	平尾(前 田家下屋敷)	139	43	0	35	45	24	資生堂板橋工 場南側の緯度 経度を読ん だ。	2	6-	新収 2-別	108	[変異日記]
千代田区	外神田2 丁目	神田明神	139	46	4	35	42	7	神田神社	1	6	新収 2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左 衛門重章の日記)]
千代田区	西神田3 丁目	三好勘之 丞屋敷 (旗本)	139	45	14	35	41	52	デニーズ神田 神保町店前交 差点付近	1	5+	新収 2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	西神田2 丁目	酒井作左 衛門屋敷 (旗本)	139	45	17	35	41	53	パレスピアビ ル西向の建物	1	5+	新収 2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	西神田2 丁目	溝口撰津 守屋敷 (旗本)	139	45	18	35	41	53	パレスピアビ ル	1	5+	新収 2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
狛江市	岩戸	岩戸村庚 申前	139	35	0	35	38	1	岩戸北三丁目 の地理的中心 部の緯度経度 を読んだ。	2	5+	新収 2-別	100	[世田谷領分内橋梁懸替 一件書類]
港区	芝公園4 丁目	増上寺	139	45	1	35	39	26	増上寺	1	5+	新収 2-別	114	[雑書]
港区	虎ノ門1丁 目10	木下右衛 門太夫屋 敷	139	45	2	35	40	7	「西新橋2」交 差点西	1	5+	新収 2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]
千代田区	日比谷公 園	南部藩江 戸屋敷	139	45	17	35	40	13	日比谷図書館	1	5+	新収 2-別	114	[雑書]
千代田区	日比谷公 園	南部備後 殿上屋敷	139	45	19	35	40	13	日比谷図書館	1	5+	新収 2-別	77	[隆光僧正日記(神田橋護 持院の僧正)]
千代田区	内幸町2 丁目	伊東出雲 守屋敷	139	45	15	35	40	17	日本プレス	1	5+	新収 2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	内幸町1 丁目	亀井隠岐 守屋敷	139	45	10	35	40	18	飯野ビル東京 銀行	1	5+	新収 2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ビ 震 度	古文書の記述	出典	ペ ー ジ 数	文書名
			度	分	秒	度	分	秒						
千代田区	日比谷公園	秋田信濃守屋敷	139	45	21	35	40	18	1	5+	表長屋瓦崩れ板崩	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	千代田	数寄屋橋	139	45	45	35	40	23	1	5+	稲葉能登守通知が石垣修理	新収2-別	78	[東京市史稿 皇城編]
千代田区	有楽町2丁目	数寄屋橋御門	139	45	45	35	40	23	1	5+	数寄屋橋交差点 塀4, 5間崩	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
千代田区	日比谷公園	松平大膳太夫屋敷(毛利)	139	45	22	35	40	34	1	5+	日比谷公園内、北西、日比谷画廊 松平大膳太夫屋敷 表長屋壁、瓦、土塀損	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
中央区・江東区	中央区新川1丁目・江東区佐賀1丁目・江東区永代1丁目	深川永代橋	139	47	11	35	40	36	1	5+	永代橋西岸	新収2-別	15	[楽只堂年録]
千代田区	永田町1丁目	井伊掃部守屋敷	139	44	53	35	40	38	1	5+	日本水準原点	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	霞ヶ関1丁目	上杉弾正表屋敷	139	45	14	35	40	38	1	5+	法曹会館	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	鍛冶橋	139	46	0	35	40	38	1	5+	東京駅南口南方200m	新収2-別	78	[東京市史稿 皇城編]
千代田区	永田町2丁目	雲州様御屋敷(松平出羽守)?	139	44	26	35	40	42	1	5+	永田町小学校付近か?	新収2-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	皇居外苑	外桜田御門御番所	139	45	13	35	40	43	1	5+	桜田門前	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
千代田区	皇居外苑	大久保隠岐守屋敷	139	45	21	35	40	44	1	5+	二重橋前の皇居外苑	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	丸の内2丁目1	齊藤帯刀御役屋敷(定火消)	139	45	41	35	40	44	1	5+	明治生命館	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	皇居外苑	青山伊賀守屋敷	139	45	35	35	40	44	1	5+	馬場先門の交番付近	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
港区	平河町2丁目6	赤坂御門	139	44	23	35	40	46	1	5+	都道府県会館本館	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
中央区	日本橋3丁目	下槇町	139	46	22	35	40	48	1	5+	デッキビルディング	新収2-別	55	[災変温古録]
港区	元赤坂2丁目	紀伊国殿屋敷	139	43	43	35	40	49	1	5+	迎賓館の北緯東経を読んだ。	新収2-別	76	[隆光僧正日記(神田橋護持院の僧正)]
千代田区	丸の内2丁目(東京駅)	松平肥前守屋敷(鍋島)	139	45	54	35	40	50	1	5+	東京中央郵便局の前の広場あたり	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
港区	紀尾井町3丁目	糺町紀州様長屋	139	44	15	35	40	58	1	5+	文藝春秋ビルの緯度経度	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	皇居外苑	稲葉丹後守屋敷	139	45	30	35	40	58	1	5+	桔梗門南側	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	千代田	半蔵御門	139	44	38	35	41	2	1	5+	塀崩、壁落、石垣損し、大番所少々破損、	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-42p]
皇居内	千代田	紅葉山御宮	139	45	9	35	41	2	1	5+	宮内庁ビル西端付近	新収2-別	18	[楽只堂年録]
千代田区	千代田	呉服橋御門	139	46	15	35	41	4	1	5+	呉服橋ランプ、新日鉄ビル	新収2-別	78	[東京市史稿 皇城編]
千代田区	大手町2丁目	呉服橋御門	139	46	15	35	41	4	1	5+	呉服橋ランプ、新日鉄ビル	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-41p]
中央区	日本橋人形町1丁目東華小学校東側	元大坂町	139	46	54	35	41	5	1	5+	東華小学校は日本橋小学校と改名した。	新収2-別	53	[災変温古録]
千代田区	麴町6丁目	四谷御門	139	43	50	35	41	9	1	5+	JR四ツ谷駅と新宿通りの交点	新収2-別	152	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目	井上大和守屋敷	139	45	44	35	41	9	1	5+	大手センタービルと大洋漁業協和本店	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	丸の内1丁目	秋元但馬守屋敷	139	45	50	35	41	12	1	5+	三和銀行東京本部、平将門首塚南	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安 ピ	震度	古文書の記述	出典	ページ数	文書名
			度	分	秒	度	分	秒						
中央区	日本橋本町1-2丁目	伊勢町	139	46	34	35	41	14	1	5+	酒問屋甚兵衛、太左衛門、三郎兵衛の土蔵崩	新収2-別	54	[炎変温古録]
千代田区	北の丸公園	北の丸口	139	45	14	35	41	20	1	5+	北詰橋門	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	大手町1丁目9	松平美濃守屋敷	139	45	52	35	41	20	1	5+	日本開発銀行	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目4	小笠原佐渡守屋敷	139	45	35	35	41	26	1	5+	丸紅本社ビル	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	大手町1丁目	一橋御門	139	45	32	35	41	27	1	5+	一橋ランプ、丸紅本社ビル西側	新収2-別	148	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	五番町	市ヶ谷御門	139	44	8	35	41	29	1	5+	JR市ヶ谷駅と靖国通りの交点	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	北の丸公園	清水御門	139	45	10	35	41	34	1	5+	千代田区役所東南	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	北の丸公園	田安御門	139	44	57	35	41	40	1	5+	田安門	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
中央区	日本橋馬喰町2丁目	伊奈半左衛門屋敷	139	46	56	35	41	41	1	5+	エトワールプラザ付近	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
新宿区	市ヶ谷本村町	尾侯御屋敷	139	43	41	35	41	42	1	5+	防衛庁庁舎付近	新収2-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
台東区	浅草橋	浅草橋御門大番所	139	47	6	35	41	44	1	5+	浅草橋交差点付近	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	神田須田町1,2丁目	神田小柳町	139	46	13	35	41	45	1	5+	須田町交差点	新収2-別	40	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-55]
千代田区	神田神保町3丁目	大沢主膳屋敷	139	45	16	35	41	49	1	5+	専修大学敷地東側	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	神田須田町1丁目	筋違(すじかい)御門	139	46	15	35	41	49	1	5+	万世橋南詰め(万世橋の前身を筋違御門橋と言った)	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	神田神保町2丁目	中山主馬屋敷	139	45	18	35	41	50	1	5+	ゼンリン	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	神田神保町3丁目10	三枝日向守屋敷	139	45	15	35	41	51	1	5+	松晃ビル	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	神田淡路町2丁目5	松平伊豆守屋敷	139	46	5	35	41	51	1	5+	淡路小学校付近	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	三崎町3丁目	加藤伝八郎屋敷(加藤日向守か)	139	45	11	35	41	58	1	5+	人文社ビル	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	飯田橋2丁目	大久保甚兵衛屋敷	139	45	2	35	41	60	1	5+	JR飯田橋操車場の中	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	富士見2丁目	牛込御門	139	44	36	35	42	1	1	5+	JR飯田橋駅西口、牛込橋	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
千代田区	富士見2丁目	牛込御門	139	44	36	35	42	1	1	5+	JR飯田橋駅西口、牛込橋	新収2-別	151	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	三崎町3丁目	前場久三郎屋敷	139	45	4	35	42	4	1	5+	ニチレイ付近	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	飯田橋3丁目10	榊原式部大輔屋敷	139	45	0	35	42	8	1	5+	JR飯田橋操車場	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
文京区	小石川1丁目	水戸の御館	139	44	57	35	42	20	1	5+	小石川後楽園	新収2-別	61	[元禄十六年関東大地震記]
台東区	浅草2丁目	浅草観音	139	47	48	35	42	53	1	5+	浅草寺本堂	新収2-別	57	[元正間記]
台東区	上野桜木1丁目	権現様	139	46	14	35	42	56	1	5+	東照宮	新収2-別	113	[雑書]
台東区	上野桜木1丁目	大猷院	139	46	36	35	43	5	1	5+	国立博物館東洋館	新収2-別	113	[雑書]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在の目安	ビ 震 度	古文書の記述	出典 ペー ジ数	文書名	
			度	分	秒	度	分	秒						
台東区	上野桜木1丁目	東叡山御宮	139	46	28	35	43	7	1	5+	御拝殿石の間之取り付け漆繕、御唐門左右御玉垣塀共に繕、勅額御門内左右玉垣矢来御修復、鷹之御門繕	新収2-別	18	[楽只堂年録]
台東区	上野桜木1丁目	敵有院	139	46	32	35	43	13	1	5+	大猷院、敵有院、権現様(徳川家康)御石灯笼破損	新収2-別	113	[雑書]
台東区	上野公園	上野御廟所	139	46	35	35	43	20	1	5+	上野御廟所御霊垣残らず崩	新収2-別	111	[津軽藩 御日記(江戸)]
台東区	谷中7	津梁院御廟所(津軽信枚)	139	46	18	35	43	21	1	5+	谷中保育園近く	新収2-別	110	[津軽藩 御日記(江戸)]
世田谷区	上野毛	上のけ	139	38	18	35	36	43	2	5+	上野毛駅前 の緯度経度を読んだ。	新収2-別	99	[世田谷領分内橋梁懸替一件書類]
世田谷区	喜多見	世田谷喜多見	139	35	57	35	37	40	2	5+	喜多見3丁目、4丁目、5丁目の町境の緯度経度を読んだ。	新収2-別	99	[世田谷領分内橋梁懸替一件書類]
世田谷区	砧1丁目、大蔵1丁目、砧公園	横根山	139	37	8	35	37	53	2	5+	砧公園内の点の緯度経度を読んだ。	新収2-別	99	[世田谷領分内橋梁懸替一件書類]
世田谷区	世田谷1丁目	世田谷宿	139	38	56	35	38	33	2	5+	世田谷1丁目と3丁目の町境の緯度経度を読んだ。	新収2-別	99	[世田谷領分内橋梁懸替一件書類]
港区	三田3丁目	芝田町8丁目	139	44	29	35	38	37	2	5+	東海道に面す	新収2-別	53	[炎変温古録]
中央区	築地6丁目	南小田原町1丁目	139	46	15	35	39	54	2	5+	築地場外市場、小田原橋付近	新収2-別	55	[炎変温古録]
中央区	京橋2丁目	本材木町6丁目	139	46	18	35	40	35	2	5+	京橋2丁目中央付近の北緯東経を読んだ	新収2-別	55	[炎変温古録]
中央区	新川1丁目	霊岸島四日市町	139	47	4	35	40	36	2	5+	新川1丁目の中央部の緯度経度を読んだ。	新収2-別	53	[炎変温古録]
港区	元赤坂1丁目	元赤坂町	139	44	2	35	40	40	2	5+	元赤坂町	新収2-別	53	[炎変温古録]
中央区	京橋1丁目	大鋸町(おがちょう)	139	46	15	35	40	41	2	5+	新八重洲ビル裏側	新収2-別	53	[炎変温古録]
中央区	京橋1丁目	本材木町5丁目	139	46	22	35	40	41	2	5+	京橋1丁目中央付近の北緯東経を読んだ	新収2-別	55	[炎変温古録]
中央区	日本橋箱崎町	北新堀町	139	47	11	35	40	41	2	5+	三井倉庫別館付近	新収2-別	55	[炎変温古録]
新宿区	若葉2-3丁目、南元町	般若橋谷町	139	43	28	35	41	9	2	5+	愛染院の緯度経度を読んだ。	新収2-別	52	[炎変温古録]
中央区	日本橋本町1丁目	本町三丁目裏河岸	139	46	38	35	41	10	2	5+	日本橋本町1丁目の中心部の緯度経度を読んだ。	新収2-別	54	[炎変温古録]
中央区	日本橋本町3丁目-4丁目、室町3丁目-4丁目	本石町4丁目	139	46	32	35	41	23	2	5+	日本橋本町3丁目4丁目と日本橋室町3丁目-4丁目の境界交差点	新収2-別	52	[炎変温古録]
新宿区	市ヶ谷八幡町	市ヶ谷八幡町	139	44	3	35	41	34	2	5+	市ヶ谷八幡の緯度経度を読んだ。	新収2-別	55	[炎変温古録]
新宿区	市ヶ谷佐内町	市ヶ谷佐内町	139	43	59	35	41	41	2	5+	大館物産の緯度経度を読んだ。	新収2-別	55	[炎変温古録]
江戸川区	平井	武州今井九右衛門代官所下平井村	139	50	41	35	42	8	2	5+	本門佛立宗清秀寺の緯度経度を読んだ	新収2-別	16	[楽只堂年録]
葛飾区	亀有	亀有村の内本所上水堀	139	51	0	35	45	45	2	5+	祥雲院の緯度経度を読んだ	新収2-別	15	[楽只堂年録]
港区	三田	南部藩江戸屋敷中屋敷	139	44	27	35	38	47	1	5-	三田中学校	新収2-別	114	[雑書]
港区	麻布5丁目(東京都中央図書館)	南部藩江戸屋敷下屋敷	139	43	35	35	39	8	1	5-	東京都中央図書館	新収2-別	114	[雑書]
港区	芝公園4丁目	増上寺	139	44	53	35	39	26	1	5-	増上寺	新収2-別	113	[雑書]
港区	芝公園3丁目	金地院	139	44	49	35	39	34	1	5-	金地院	新収2-別	113	[雑書]

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ビ 震 度	古文書の記述	出典	ペ ー ジ 数	文書名
			度	分	秒	度	分	秒						
千代田区	新橋1丁目15	幸橋御門	139	45	28	35	40	4	1	5-	壁、瓦所々損	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	内幸町1丁目	鍋島紀伊守屋敷	139	45	30	35	40	12	1	5-	表長屋壁落	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	日比谷公園	南部藩江戸屋敷上屋敷	139	45	17	35	40	13	1	5-	江戸三屋敷鴨居が落ちた程度で破損というほどではなし	新収2-別	114	[雑書]
港区	霞ヶ関3丁目	虎ノ御門	139	44	57	35	40	14	1	5-	壁、瓦所々損	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	丸の内1丁目	鍛冶橋	139	46	0	35	40	38	1	5-	所々壁落ち	新収2-別	151	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	丸の内1丁目	鍛冶橋	139	46	0	35	40	38	1	5-	所々壁落ち	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
千代田区	丸の内1丁目	青山伊賀守屋敷	139	45	33	35	40	44	1	5-	長屋壁落	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	東御苑(大手門)	追手御門	139	45	37	35	41	10	1	5-	所々壁、瓦落	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-42p]
中央区	日本橋本町1-2丁目	伊勢町	139	46	34	35	41	14	1	5-	酒問屋六右衛門、清兵衛、惣兵衛、又兵衛の土蔵内に貯蔵した酒多数損ず	新収2-別	54	[災変温古録]
新宿区	市ヶ谷本村町	尾俣御屋敷	139	43	35	35	41	39	1	5-	防衛庁庁舎付近	新収2-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
千代田区	神保町2丁目	永井庄左衛門屋敷(永井三兵?)	139	45	20	35	41	46	1	5-	塀損	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	三崎町3丁目-10	室賀源太郎屋敷	139	45	5	35	42	1	1	5-	宝(室の間違い)賀源太郎屋敷長屋壁損	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	三崎町3丁目5	高木九助屋敷	139	45	3	35	42	5	1	5-	長屋少損	新収2-別	23	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	三崎町2丁目20	屋代越中守屋敷	139	45	9	35	42	7	1	5-	水道橋駅・西口会館	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-43p]
千代田区	飯田橋3丁目	小石川御門	139	45	1	35	42	10	1	5-	首都高速池袋線のすぐ近く	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
江東区	亀戸3丁目11-26番地	津軽藩江戸藩邸	139	49	15	35	42	16	1	5-	亀戸天神の北側、普門院と横十間川にはさまれた領域が津軽藩邸である。	新収2-別	110	[津軽藩 御日記(江戸)]
文京区	小石川1丁目	水戸宰相殿御屋敷	139	44	57	35	42	20	1	5-	小石川後楽園	新収2-別	25	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
台東区	上野桜木1丁目	東叡山蔵有院様御仏殿	139	46	28	35	43	19	1	5-	寛永寺	新収2-別	18	[楽只堂年録]
台東区	上野桜木1丁目	東叡山宝樹院様、高蔵院様御仏殿	139	46	30	35	43	19	1	5-	寛永寺	新収2-別	18	[楽只堂年録]
墨田区	緑4丁目	本所入江町	139	48	26	35	41	40	2	5-	緑4丁目の地理的に中心地である所の緯度経度を読んだ。	新収2-別	53	[災変温古録]
千代田区	内幸町1丁目	阿部対馬守屋敷	139	45	30	35	40	21	1	5	帝国ホテル	新収2-別	24	[文鳳堂雑纂 変災部五十五]、[甘露叢、史料2-44p]
千代田区	北の丸公園	内竹橋口番所	139	45	19	35	41	26	1	4	橋の上	新収2-別	22	[文鳳堂雑纂 変災部五十五][甘露叢、史料2-41p]
新宿区	市ヶ谷本村町	尾俣御成門	139	43	54	35	41	28	1	4	グランドヒル市ヶ谷	新収2-別	151	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
台東区	上野公園	津梁院	139	46	18	35	43	7	1	4	東京芸術大学	新収2-別	110	[津軽藩 御日記(江戸)]
品川区	品川	品川宿	139	44	15	35	37	42	2	4	第一京浜沿い、品川駅前の緯度経度を読んだ。	新収2-別	115	[元禄地震損害調査](米沢県立図書館)

区名	現住所	史料上の 原地名	経度			緯度			現在地の目安	ビ 震 度	古文書の記述	出典	ペー ジ数	文書名
			度	分	秒	度	分	秒						
八王子市	八王子	八王子	139	20	22	35	39	34	(八王子)「駅入口」交差点の緯度経度を読んだ。	2	4	新収2-別	108	[正統桑都日記]
青梅市	二俣尾	二俣尾	139	12	55	35	48	16	JR二俣尾駅	2	4	新収2-別	107	[谷合氏見聞録]
大島町	差木地波布	湫の池	139	26	13	34	41	20	波浮港	2	4	新収2-別	108	[伊豆大島志考]
八丈町	中の郷	中の郷								-		新収2-別	108	[八丈実記 六][八丈島小島青ヶ島年代記]
八丈町	檜立	檜立村								-		新収2-別	108	[八丈実記 六]
八丈町	末吉	末吉村								-		新収2-別	108	[八丈実記 六]
八丈町	大賀郷	大賀郷								-		新収2-別	108	[八丈実記 六]
八丈町	三根	三峯村								-		新収2-別	108	[八丈実記 六]
八丈町	宇都木、島打	八丈小島								-		新収2-別	108	[八丈実記 六]
大島町	岡田	岡田村								-		新収2-別	4	[楽只堂年録]
品川区	品川	品川宿								-		新収2-別	109	[諸国地震記]
港区	芝浦	芝								-		新収2-	61	[元禄十六年関東大地震記]
港区	東新橋2丁目、5丁目	露月町(ろうげつちょう)								-		新収2-別	52	[炎変温古録]
中央区・江東区	築地・深川	築地・深川								-		新収2-別	96	[震火記]（「江戸の災害情報」に引用）
江東区	深川	深川								-		新収2-	61	[元禄十六年関東大地震記]
江東区	永代島	永代島								-		新収2-	61	[元禄十六年関東大地震記]
墨田区	永代橋	永代橋								-		新収2-別	149	[鸚鵡駕籠中記(朝日文左衛門重章の日記)]
中央区	新川町	北新堀大川端町								-		新収2-別	56	[炎変温古録]